



商学部

国際教養プログラム

数理科学プログラム

International Studies Program

Mathematical Science Program

「専門 + もう1つ」



「専門+もう一つ」 日吉発の二つのプログラム

商学部には、専門分野である商学以外にも何か一つ、自分の興味のある分野を自主的かつ系統的に学ぶことができるように、いくつかの「プログラム」が用意されています。「自分は大学でこれを学んだ」という得意分野をアピールできるよう、4年間を通しての体系的な学習を支援するためのプログラムです。プログラムを構成する科目から、所定の条件を満たし、必要な単位数を取得した学生には、各プログラムの「認定証」が発行されます。履修科目の選択に迷っている人は、プログラムの認定を目標として履修計画を立てることで、自分自身の学習目標を設定し、達成までの道筋を見出すことができるでしょう。ぜひ日吉からプログラムに挑戦して、自分の「強み」を見つけてください。

日吉からはじまるプログラムには、外国語をベースとする「国際教養プログラム」と、数学を中心とする「数理科学プログラム」があります。

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語の各言語圏に応じて設置されている「国際教養プログラム」の対象となっているのは、必修の語学科目のほかに、地域研究をはじめとする講義科目や、関連する少人数制のセミナー科目です。バラエティに富んだ科目を体系的に履修することで、語学力だけでなく、各言語圏の歴史や文化に関する知識と理解を深めることができます。

「数理科学プログラム」では、必修科目以外に、専門科目を学ぶ上で必要となるスキルや社会活動と結びつく応用力を身につけるための、多彩な科目が用意されています。これらの履修を通して論理と数字に対する自信をつけることが、ここでの大きな目標です。

大学で勉強することは必ずしも即効的効果のあるものばかりではなく、卒業後長い時間を経てはじめてその価値に気づくものの方が、むしろ多いかもしれません。日吉発のプログラムは、そのような大学における勉学に一定の道筋を与えてくれることでしょう。

この日吉から「専門+もう一つ」をはじめてみませんか？

- ★ いずれのプログラムも任意選択によるもので、事前登録は必要ありません。また、複数のプログラムの認定を並行して目指すこともできます。最短で3学年春学期に認定条件を満たすことができます。

プログラム関連情報が商学部公式ウェブサイトにはアップされていますので、参考にしてください：

商学部公式ウェブサイト→グローバル&数理科学プログラム
塾生サイト→商学部→国際教養プログラム・数理科学プログラム

* 国際教養プログラム・数理科学プログラムは、2019年度の商学部新カリキュラム導入にあわせて、旧強化プログラム（2018年度以前）を改訂・継承したものです。2019年度以降の認定申請に際しては、2018年度以前入学者も含め、新しいプログラムの認定条件が適用されます。認定条件の改訂は、旧カリキュラム履修者が不利益を被ることのないよう十分に配慮されて行われていますが、新旧の認定条件および新旧カリキュラムの科目名の対応について、詳しくは上記塾生サイトのHPにある「新旧カリキュラム科目名対照表」および「新旧カリキュラム認定条件の対応」を確認してください。

プログラム履修案内

1 プログラム修了認定のための条件

- (1) 当該分野の必修科目取得に加え、「認定科目」として指定された科目の中から16単位（自由科目として取得した単位を含む）以上取得する。
 - (2) 上記16単位のうちの4単位（自由科目として取得した単位を含む）以上は、3・4年配当科目から取得する。
- * 各プログラムの事前登録は必要ありません。条件を満たした時点で、事後申請をします。最短で3学年春学期に認定条件を満たし、認定証の申請をすることが可能です。
 - * 各プログラムの概要、認定条件の詳細については4ページ以降を参照してください。認定科目として開講される科目は年度によって変わる場合がありますので、塾生サイトのプログラムHPまたは時間割の科目一覧を参照してください。

2 認定のための申請手続きについて

3学年または4学年で認定証発行を希望する者は、当該年度において以下の手続きを行ってください。なお、各手続きの期日については、毎年HPで詳細を確認してください。

- (1) **履修科目の選択**：シラバス・時間割等を見て、プログラム修了認定の条件に沿った履修計画を立ててください（HPの「計画表」を活用してください）。
- * 認定科目の問い合わせ：ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏の場合、HPの「認定科目一覧」に記載のない科目についてはすべて、10月中旬までに、HPの「認定対象科目問い合わせフォーム」（右ページ参照）から問い合わせてください（認定科目は当該年度取得見込みでもかまいません）。問い合わせをしなかった場合、当該科目が認定されないことがあります。必修科目やすでにHPに載っている科目など、認定科目として確かなものについては問い合わせる必要はありません。なお、英語圏・数理科学に関しては、HPに掲載されている科目以外は認定対象とならないため、問い合わせは不要です。
- (2) **認定申請書提出**：3学年または4学年の10月中旬から下旬の指定された期間に、HPから「プログラム認定申請書」をダウンロードし、それに当該年度春学期の成績表を添付して、三田学生部商学部担当に原則として学生本人が提出してください。国際教養プログラム（各語圏）と数理科学プログラムで申請書が異なりますので、自分の申請したいプログラムの申請書を使用してください。この時点では、取得見込みの科目（申請書提出時において履修中であり当該年度に取得が見込まれる科目）も含め申請することになります。当該年度秋学期の履修申告で認定対象科目を登録した場合には、登録済科目確認画面のコピーをあわせて提出してください。なお、成績表・登録済科目確認画面コピー上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけてください。
- (3) **秋学期成績表提出**：3月中旬（提出先：三田学生部商学部担当）
春学期の時点で認定条件を満たした場合には、提出の必要はありません。なお、成績表上の当該科目には、ラインマーカー等で明確に印をつけてください。
- (4) **認定証発行**：3月末日
4年生：認定証は大学に届出の住所（学生本人）宛に郵送されます。
3年生：三田学生部商学部担当にて授与します。
- * 申請をしたが、単位が未取得あるいは成績が規準に満たないなどの理由で認定されなかった場合には、その旨を連絡します。
- * 申請の手続き書類（申請書、春・秋成績表など）に不備があるもの、または締め切り日までに提出がなされなかったものは、当該年度の認定対象となりませんので十分注意してください。
- * 不明な点、不安な点などがあれば、三田／日吉学生部商学部担当（各自の所属キャンパスの学生部）に相談してください。

プログラム認定申請手続きの流れ

第1 ～ 4 学年	4月～10月中旬	履修科目の選択 (認定対象科目問い合わせ)
	<p>シラバス・時間割等を見て、プログラム修了認定の条件に沿った履修計画を立ててください。</p> <p>* ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏の場合、HPの「認定科目一覧」に記載のない科目についてはすべて、国際教養プログラムWebページの「認定対象科目問い合わせフォーム」から必ず問い合わせてください。問い合わせをしなかった場合、当該科目が認定されないことがあります。認定対象の可否については1週間前後で回答します。時間割を検討中の場合は、回答が履修申告期間に間に合うよう、時間に余裕をもって問い合わせをしてください。</p> <p>* 英語圏・数理学問に関しては認定科目の問い合わせは不要です。</p>	

第3 または 4 学年	10月中旬～下旬	認定申請書・春学期成績表提出 提出先：三田学生部商学部担当
	<p>認定を希望するプログラムごとに申請書・成績表（Webから出力）を提出してください。申請は年度内1回（10月のみ）です。</p> <p>プログラム対象科目（申請するものすべて）にラインマーカーで印をつけてください。</p> <p>* 秋学期に履修登録したプログラム対象科目がある場合、登録済科目確認画面のコピーをあわせて提出してください。</p>	
	3月中旬	秋学期成績表提出 提出先：三田学生部商学部担当
	<p>プログラム対象科目（申請するものすべて）にラインマーカーで印をつけてください。</p> <p>* 秋学期に単位取得した科目がない（春学期の時点で認定条件を満たしている）場合、成績表の再提出は不要です。</p>	
	3月下旬	認定証の発行

【締切厳守】

スケジュールの詳細については、年度毎に必ずプログラムHPで確認してください。

国際教養プログラム (英語圏)

国際教養プログラム（英語圏）では、英語運用能力4技能をバランスよく修得し、さらに英語を使って研究・発信する力を養成します。自主強化科目の英語科目（日吉設置）や「外国語演習」（三田設置）ではスキルを中心に学習し、「総合教育セミナー」（日吉設置）や「国際教養演習」（三田設置）では修得したスキルを研究、発表に用いる場を与えられます。いずれのクラスも少人数ですから、集中して演習する良い機会となるはずです。

また、商学部設置科目以外の科目（外国語教育研究センター、国際センター設置科目）を履修することで、海外研修を含む多様な学習の機会を得ることができます（諸研究所設置科目の卒業単位への算入については、各自商学部履修案内で確認してください）。プログラムに認定されるセンター科目はHP掲載の認定科目一覧を参照してください。

プログラムに認定される科目を履修することで、英語を勉強するばかりでなく、英語で勉強する楽しさを多くの皆さんに経験して欲しいと願っています。

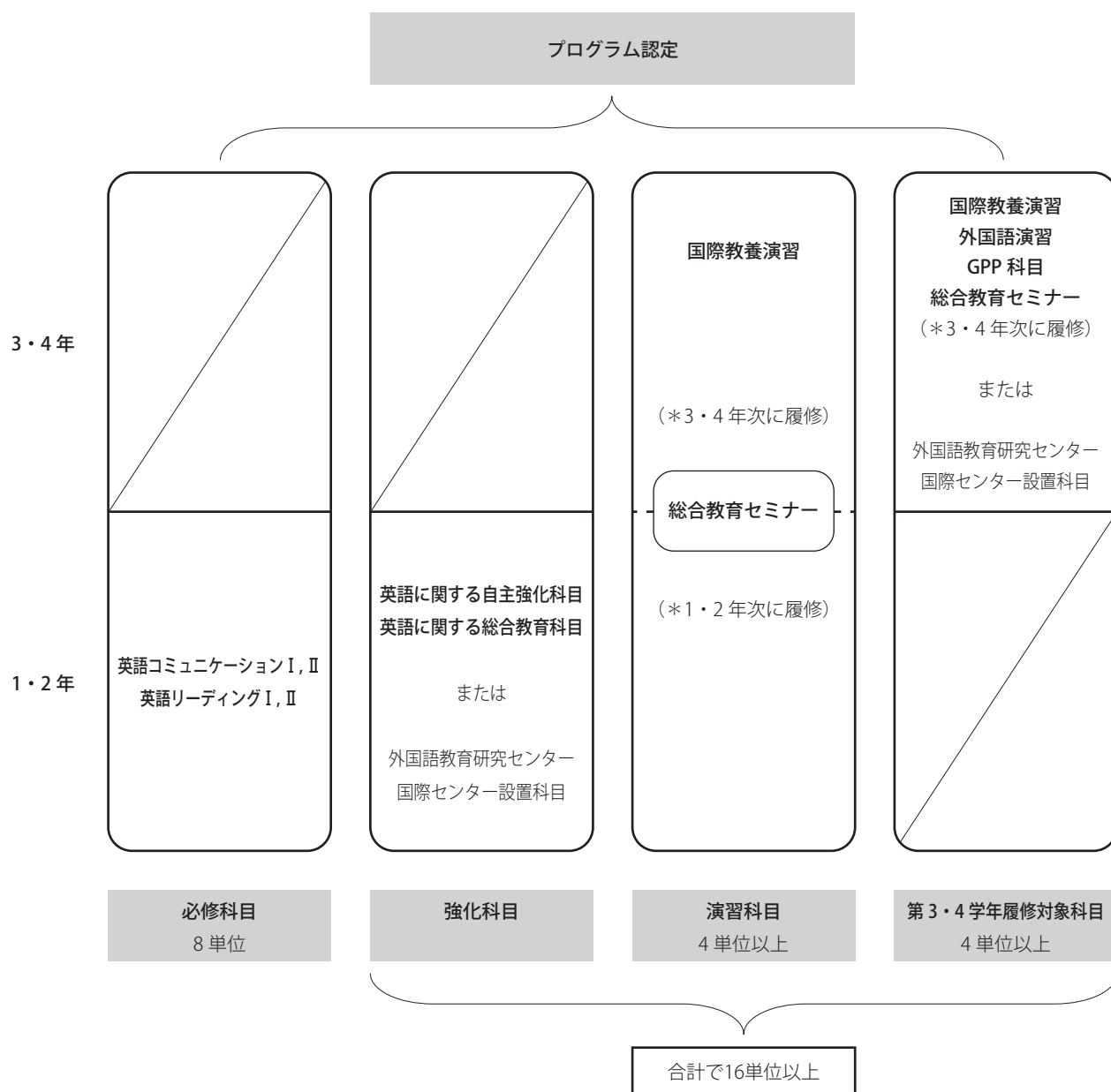
認定条件（右ページ参照）

- (1) 必修科目（英語） **8単位**
- (2) HPに掲載されている認定科目の中から**16単位以上**。ただし、次の（ア）・（イ）の条件を満たすこと。
 - （ア）演習科目（認定対象となっている総合教育セミナー、国際教養演習）から **4単位以上**
 - （イ）第3・4学年履修対象科目から **4単位以上**

商学部で3・4年生向けに設置されている専門的な国際プログラムであるGlobal Passport Program (GPP) は、国際教養プログラム（英語圏）とも連携しています。GPPを履修しながら、国際教養プログラム（英語圏）に申請することが可能です。

GPPは、専門性の高いコースワークを提供するために、原則英語により授業を行う教育プログラムです。できるだけ1年次、2年次のうちに必修英語科目のみならず、複数の選択英語科目を履修しておくことが望まれます。なお、応募条件が変更になる場合がありますので、GPPのHP (<https://www.students.keio.ac.jp/mt/fbc/class/program/gpp.html>) で最新の情報を確認してください。

プログラムの見取り図 (英語圏)



- * 認定科目の詳細については、プログラムHPを確認してください。
- * 総合教育セミナーは学年に関わりなく履修可能です。ただし日吉開講のため、抽選時に科目設置学年を優先する場合があります。履修希望者はガイダンスに出席して確認してください。
- * 3・4年次に「演習科目」(三田設置「国際教養演習」もしくは日吉設置「総合教育セミナー」)を履修した場合、「演習科目」と「第3・4学年履修対象科目」の必要単位(各4単位)を同時に充当することができます。

国際教養プログラム

(ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・スペイン語圏)

「グローバル化」とははたして「英語化」を意味しているのでしょうか？ 決してそうではありません。実際に海外で生活をしたことがある人ならば、きっとそのことをよく実感しているはずです。もちろん英語ができることは大前提ですが、逆に言えば、英語ができることがもはや当たり前となった今日、もう一つの言語、文化、歴史について知っていることは、自分の個性や特徴を活かすうえで大変大きな強みになります。たとえば欧州評議会で、ヨーロッパにおける言語教育の目標として「母国語+最低二言語」が掲げられているように、3つ以上の言語を理解できることはいまや新しいグローバル・スタンダードになりつつあるのです。これからの社会で活躍するためには、そうした幅広いスキルがますます求められていくことでしょう。大学での4年間は、英語以外のもう一つの外国語を習得し、さらにその背景にある文化や歴史についても習熟する絶好の機会となるはずです。

国際教養プログラム（ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・スペイン語圏）は、4つの「語圏」に分かれています。「語圏」というのは、ドイツやフランスといった特定の国のことだけではなく、その言語が使われている地域全体を指しています。これら4つの語圏だけでも、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジアなど、わたしたちの世界のほとんどの地域をカバーしていることになるわけです。

このプログラムの第一の目標は、必修外国語に加え、語学強化科目を履修することで、外国語のスキルアップを達成することにあります。ただし、言語だけに特化しているわけではありません。自分の関心のある語圏の「総合教育セミナー」（日吉設置）あるいは「国際教養演習」（三田設置）を履修し、少人数の演習形式で、具体的なテーマに沿った集中的な勉強に取り組むことができます。また、講義科目では、関心のあるテーマや地域について幅広い知識を得ることができますし、さらには三田にも独自の認定科目が用意されています。3年間ないし4年間かけて、このプログラムの認定科目を履修することで、それぞれの語圏に関する知識や能力を着実に定着させていくことができるでしょう。

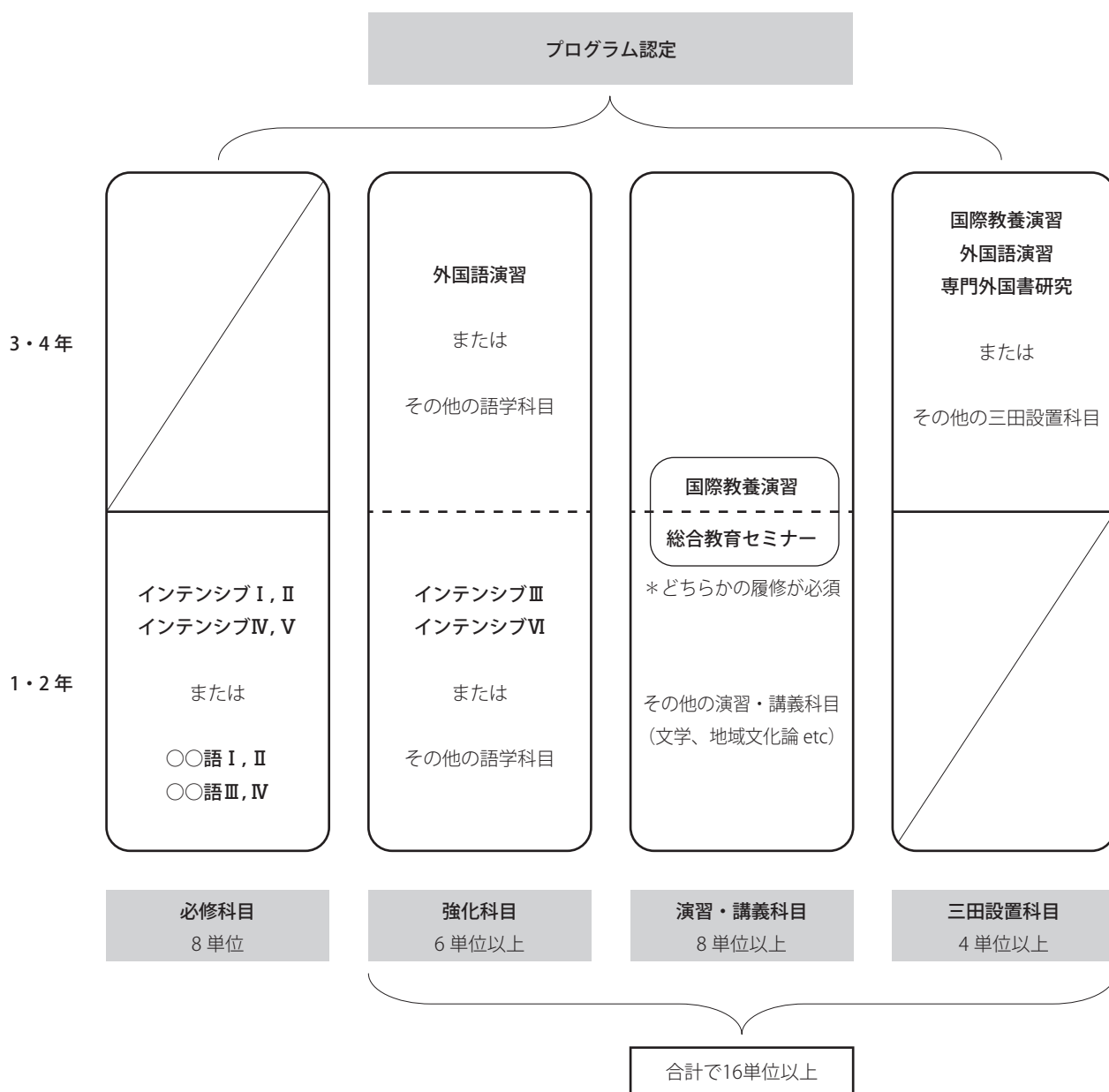
商学の専門科目や英語のスキルアップと並行して、自分が関心をもっている地域に関わる言語、文化、歴史などについての総合的な知識と運用能力を向上させたい人、将来留学を考えている人、海外展開をしている企業や国際機関で働きたい人、ヨーロッパのみならずアジア・アフリカ・中南米などで活躍することを目指す人は、このプログラムにぜひ挑戦してみてください。

認定条件（右ページ参照）

- (1) 必修科目（語学科目） **8単位**
- (2) 強化科目（語学科目）から **6単位以上**
- (3) 演習・講義科目から総合教育セミナーまたは国際教養演習を含む **8単位以上**
- (4) 三田設置科目（第3・4学年配当科目）から **4単位以上**

* 本プログラムではみなさんの積極的な学習態度を重視します。そのため、認定に必要な24単位のうち、評語Cの履修科目は最大4単位までしか認めません。

プログラムの見取り図 (ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・スペイン語圏)



- * 認定科目の詳細については、プログラムHPを確認してください。
- * 語学科目は基本的に通年2単位もしくは半期1単位、講義・演習科目は通年4単位もしくは半期2単位です。ただし、外国語演習は半期2単位です（通年での履修も可能です）。
- * **認定に必要な単位数について**
国際教養プログラム（ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・スペイン語圏）の認定に必要な単位数は、旧強化プログラムの場合と同様、計24単位です。認定条件（1）必修科目8単位に加えて、（2）～（4）の条件を満たすかたちで計16単位以上の取得が必要となります。
- * **三田設置科目の履修による認定条件の同時充当について**
国際教養プログラム（ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・スペイン語圏）については、（4）三田設置科目の履修によって複数の条件を同時に満たすことができます。たとえば、「外国語演習」の取得単位は（2）強化科目の条件にも、また、「国際教養演習」の取得単位は（3）演習・講義科目の条件にも、同時に含まれます。

ドイツ語圏

国際教養プログラム（ドイツ語圏）では、ドイツ語の運用能力を確実なものとし、同時に広くドイツおよびドイツ語圏の文化と社会について学ぶことを目的としています。新しい言語を学ぶことは、新しい世界を知ることです。ドイツ語の場合、それはドイツ語圏の人々とのコミュニケーションによって開かれる世界であり、さらにはドイツ語でしかアクセスできない情報や知識を通して広がる世界でもあります。哲学や文学、音楽や絵画の豊かな伝統を持つドイツは、現在EUを政治的・経済的にリードする先進国であるばかりでなく、原発対策をはじめとする環境政策や難民へのさまざまな支援政策など、現代社会について考えるうえで必要不可欠な経験と知見を数多く持つ、いま最も注目すべき国のひとつなのです。

しかし、みなさんもお存知のように、ドイツ語という言語が使われているのはドイツだけではなく、オーストリアやスイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタイン公国のほか、ベルギーやイタリアの一部（南チロル地方）でも使用されているこの言葉は、それらの国々では公用語に指定されています。さらに、歴史的・文化的にドイツやオーストリアと深い関係にあった中東欧諸国（ポーランド、チェコ、ハンガリーなど）や、言語的に同じルーツを持つ北欧諸国（デンマーク、スウェーデン、ノルウェーなど）にアクセスするためにも、ドイツ語は有効な窓口となってくれる言葉です。「ドイツ語圏」の文化のなかには、西欧だけにかぎらないヨーロッパ全体の歴史が豊富に蓄積されているといえるでしょう。

また、慶應義塾大学はドイツ語圏の数多くの大学と協定しており、派遣交換留学も可能です。これは、将来国際的な舞台で活躍したいと考えている方にとって貴重な体験となるはずです。

大学の4年間を使って、ドイツ語を集中して勉強したい人、そしてドイツをはじめとするドイツ語圏について深く知りたいと思う人は、ぜひこのプログラムの認定をめざしてください。

- * ドイツ語科目以外の主な認定対象科目としては、ドイツ語教員が担当する「総合教育セミナー」（日吉）・「国際教養演習」（三田）、ドイツ語圏を主題とする「ドイツ事情」「地域文化論」（日吉）、ドイツ語の「外国語演習」（三田）などがあります。

フランス語圏

国際教養プログラム（フランス語圏）では、言語としてのフランス語運用能力を確実に身につけると同時に、その言語が使われているフランス語圏の国や地域についての知識を学びます。とくに、以下のような目標をもった人にはオススメです。

- ・交換留学でフランス語圏の大学に留学したい。
- ・ESSECでのダブル・ディグリーの取得を考えている。
- ・将来、国際的な機関・企業で働きたい。

慶應と協定を結ぶフランス語圏の大学はたくさんあります。2年次の秋に出願し、3年次の秋から4年次の春にかけて留学するのが一般的です。また、ESSECでのダブル・ディグリーは英語だけでも取得可能ですが、実際にはESSECではフランス語での授業も多く開講されています。充実した留学生活を送るためには、まず日吉の2年間でフランス語やフランス語圏の社会・文化の知識をつけておくのがよいでしょう。

また、フランス語圏はスイス、ベルギー、カナダなどの欧米に限られません。現在、発展が進んでいるアフリカやカリブ海にもフランス語が用いられている国や地域があります。将来、そうした方面で国際的な仕事につきたいと考えている人にもオススメです。

フランス語科目以外で、国際教養プログラム（フランス語圏）の認定対象となる主な科目は以下です。

日吉	総合教育セミナー（フランス語の教員が担当するもの） フランス事情（商学部設置科目） 地域文化論（ただしフランスを主題とするもの） 文学（ただしフランスを主題とするもの）
三田	国際教養演習（フランス語の教員が担当するもの） 外国語演習（フランス語講読／コミュニケーション）

中国語圏

国際教養プログラム（中国語圏）では、中国語運用能力と中国についての知識を習得することによって、自分なりの目的と関心をもって中国に切り込んでいくための能力を養います。商学部在学中に得た知識を武器にして、将来、中国と深くかかわっていくことのできる人材を養成することが目的です。中華人民共和国は悠久の歴史をもち、世界最大の人口を擁し、面積でもウラル山脈以西のヨーロッパに匹敵する大国です。およそ9割を占める漢民族とその他の少数民族よりなる多民族国家であり、言語的にも共通語と方言が重なり合う複雑な構造を持っています。さらには台湾・香港・マカオや世界各地に散在している華僑・華人社会など、中国語圏の広がりには測り知れません。深く広い中国語圏の世界を知るには、多方面の知識が必要です。中国語圏と中国語に興味を持っている人は、ぜひこのプログラムを履修してください。中国語以外で国際教養プログラム（中国語圏）の認定対象となる主な科目は以下のものです。これ以外にも認定される科目がありますので、「認定対象科目問い合わせフォーム」から問い合わせして下さい。

日吉：総合教育セミナー（中国語の教員が担当するもの）、中国事情、地域文化論（東アジア・中国）、地域研究—中国事情、漢文、文学（ただし中国に関するもの）。

三田：国際教養演習（中国語の教員が担当するもの）、地域研究—中国事情、世界経済各論（中国経済論）。

スペイン語圏

国際教養プログラム（スペイン語圏）は、スペイン語能力を着実に培うと同時に、スペイン語圏についての幅広い知識を身につけることを目的としたものです。スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など世界の20を超える国と地域で話されているスペイン語は4億を超える人々の母語であり、スペイン語圏の歴史・文化・地域事情は非常に豊かで多様です。スペイン語とスペイン語圏の知識を共に学ぶことによって、ぜひ語学力を生かす場を広げて下さい。

日吉キャンパスでは、総合教育セミナー（商学部スペイン語教員が担当し、スペイン語圏を対象とするもの）や総合教育科目（「ラテンアメリカ研究」、「地域研究—スペイン事情」、「地域文化論」、「文学」、「美術」のうちスペインやラテンアメリカを対象とするもの）が開講されています。また、ラテンアメリカ全体を広く視野に入れることができるように、ブラジルに関する講義科目も「演習・講義科目」のなかに含めることができます。（ただしポルトガル語の科目は認定科目に含めることはできません。）

三田キャンパスでは国際教養演習に加え、他学部のセミナー科目に関連すると判断されたものも認定科目となります。

数理科学プログラム

数理科学プログラムでは、数学の基礎学力や商学部専門分野の学習に役立つ数学の知識、学力を養います。学んでいく過程で、数学的な考え方に親しむことも目標の一つです。

数学的な考え方になじむことにより、将来数学を用いて様々な局面に当たることが出来るようになることを期待しています。数学的な考え方に親しみたい人、将来数学を一つの有用かつ強力なツールとしていきたいと思う人には、このプログラムの履修を推奨します。

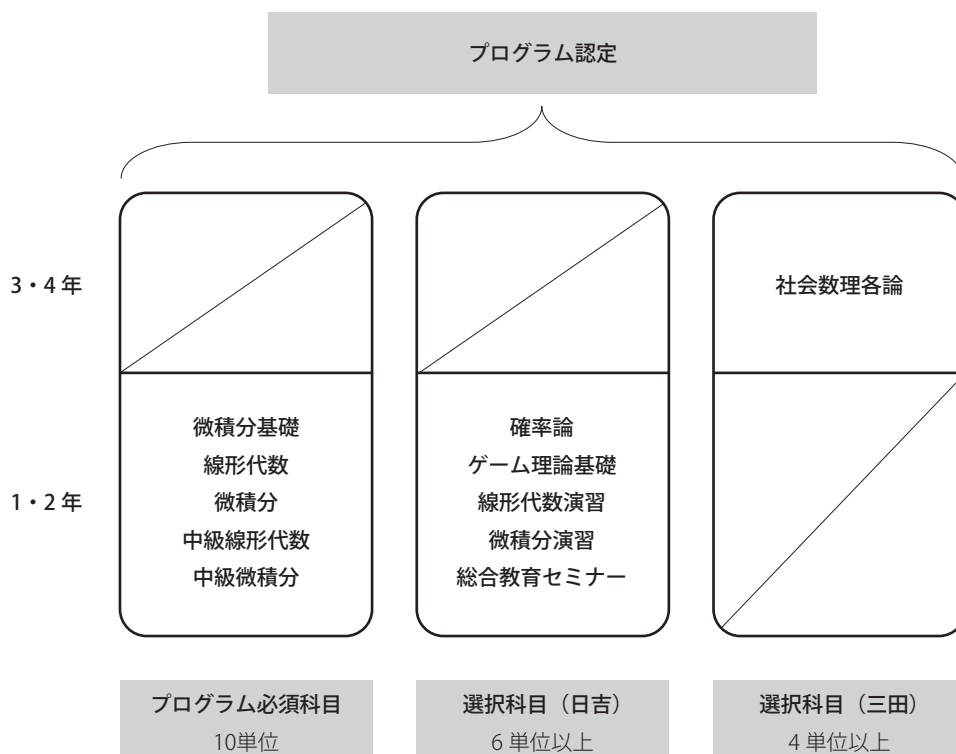
認定条件 (下記参照)

- (1) プログラム必須科目10単位
- (2) 日吉設置の選択科目から 6 単位以上
- (3) 三田設置の選択科目から 4 単位以上

* 総合教育セミナーは、商学部専任数学教員が担当するものに限りません。

* 数理科学プログラムでは積極的な学習態度を重視しますので、評語Cの科目は、認定に必要な20単位中1科目に限り認めます。

プログラムの見取り図 (数理科学)



* 認定科目の詳細については、プログラムHPを確認してください。

～ 修了者の声 ～

【国際教養プログラム（英語圏）】

— 真のコミュニケーション —

2018年度修了 山下 紗季



大学での英語の授業は高校までのものとは異なります。高校までは、文法や読解といった『語学』としての英語の習得を主な目的としていた一方で、大学では『英語を使って』ビジネスや経済などの知識を増やしたり、ディスカッションやプレゼンを通して人に伝える力や批判的な思考を鍛えたりします。私は国際教養プログラムを通して、そういった『英語力の先にあるもの』を得ることができました。だからそそクラスで深い議論ができ、自分の興味関心の幅も広がったように思います。単に英語力を伸ばすのは市販のテキストでもできます。英語の得意不得意に関わらず、本当の意味で世界中の人とコミュニケーションを取れるようになりたいと思う方におすすめです。

【国際教養プログラム（ドイツ語圏）】

— 生きたドイツ語を学ぶ —

2019年度修了 内藤駿ノ介



Guten Tag! 国際教養プログラムを通じてドイツ人と化した内藤です。好きな食べ物はカレーヴルスト、好きな飲み物はビールです。嘘です。寿司と玄米茶が大好きです。そんな私ですが、このプログラムに挑戦したからこそ「生きたドイツ語」を学ぶことが出来たように思います。慶應のドイツ語の授業は少人数で行われることが多いのですが、その分自分達の積極性を受け入れてくれる環境が整っています。例えば、美に関する文献をドイツ語で読んで論文を執筆したり、ドイツ映画を観たり、ひたすら先生とドイツ語で話す授業だったり。読み書きを学んでいるだけでは決して経験できないドイツ語や文化に触れることが出来るのです。ドイツ語にすべての時間を割いていると思われがちですが決して大変なわけではなく、同じくドイツ語の習得に励む友人と共に楽しみながらプログラムをやり遂げることが出来ました。今では1年次から挑戦してみても本当に良かったなと感じています。皆さんも大学の大切な4年間、生きたドイツ語の習得に少しだけ挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。

【国際教養プログラム（フランス語圏）】

— 商学部フランス語学科? —

2017年度修了 浅見 早映



大学生の間に、第二外国語をせっかくやるならとことんやって身につけたい、そんな思いでインテンシブコースとともにこのプログラムをはじめました。必修の授業だけでは学ぶことのないフランス文化の理解を深めたり、フランス人の思考の違いも垣間見たり、プログラムを通して新たな価値観を学び、フランスだけでなく文化や哲学まで分野を超えて関心を広げる機会となりました。なによりも、ともに高め合う友人や丁寧な指導をしてくださる先生に出会うことができ、フランス語学習のモチベーションになりました。交換留学をした際にも、先生にアドバイスをいただいたり、同じように留学したクラスメート達と悩みを共有したり助け合いました。商学部は、フランス研修や映画鑑賞会など授業外のイベントも充実しており、専門の勉強をしながらもフランス語力を高める環境が整っています。是非、このプログラムをいかしてフランス語を習得してみませんか。

【国際教養プログラム（中国語圏）】

— 新しい挑戦 —

2021年度修了 横田 蒼斗



自分の大学生活を最も左右した活動というところ、このプログラムへの挑戦だと思います。中国語の学習は、困難の連続でした。英語と違い、今まで全く触れてこなかったからこそ、発音・文法・リスニング、どれをとっても大変な労力を要しました。しかし、先生も周囲も熱意がある中で、自分自身も努力を惜しまなかったからこそ、結果としてかなりの自信を持てるようになりました。中国語以外にも、プログラムの一環として中国の歴史・経済・文化などを学ぶ中で、中国そのものへの理解も深まり、「自信を持って誇れる分野」が自分にも出来ました。今では周囲に中国人しかいない火鍋屋さんでアルバイトをしており、日常的に「中国」に触れています。そこでの体験は、普通の学生では得られない一生の宝だと思います。決して楽なプログラムではありませんが、修了することによって得られるものはそれ以上です。後輩の皆さんにも是非、挑戦して欲しいです。

【国際教養プログラム（スペイン語圏）】

—— スペイン語圏の文化と政治への探求 ——

2023年度修了 難波 沙和



私は、高校時代のスペイン留学をきっかけに、スペイン語圏の政治経済に興味を持ち、国際教養プログラムに挑戦しました。そして、1、2年次には総合教育セミナーで、スペイン語圏の文化や政治制度を学び、語学はインテンシブクラスに入り、文法やボキャブラリーを強化しました。さらに、3年次には、プログラムを通じた日吉での学びを深めるために、慶應の交換留学に出席し、アルゼンチンへの留学が決まっています。

このプログラムを通して、スペインだけでなく、ラテンアメリカにも関心をもち、留学を含め、進路選択の幅も広がりました。また、語学の授業はインテンシブの少人数クラスだったため、沢山の発言機会があり、スペイン留学時代のホストファミリーからもその成長を褒められるほど、スピーキングの力を伸ばすことができました。このプログラムがあったからこそ、これから私は、自信を持ってアルゼンチンに渡航することができるのだと思います。

皆さんもぜひこのプログラムに挑戦して、スペイン語圏の魅力に触れてみてください！

—— 「芸術の都」バルセロナに憧れて ——

2023年度修了 三宅 舞



私たちは新型コロナウイルスのパンデミックにより、大学入学と同時にステイホームを余儀なくされました。そこで、パンデミックが終焉した暁には世界を旅することを夢見て、一念発起し、スペイン語インテンシブコースと総合教育セミナーの受講を決めました。勉強を始めてからはスペイン語の軽やかな響きに魅了され、日々楽しく学習を継続できました。

また、総合教育セミナーでスペインの芸術家について研究するうちに、芸術と文化のマネジメントに興味を抱き、芸術の都、バルセロナへの交換留学を志すようになりました。プログラムに組み込まれた科目で語学の素地を養い、芸術や文化への感度を高めた状態でスペインに留学したため、現地では学習面の成果をあげるだけでなく、良好な人間関係の構築や人生の楽しみ方も会得することができました。プログラムに参加することで、皆さんは成長を後押ししてくれる周囲の方々や環境に恵まれることでしょう。そのような人や環境に感謝しながら、新しい時代を切り拓く受講生が生まれることを願っています。

【数理科学プログラム】

—— 未知なる力 ——

2012年度修了 渡邊 高平



数学は、難解な証明や公式が出てきて目をそらしたくなる方もいらっしゃるでしょう。しかし、それを理解することが出来たらどうでしょう。論理的な手順を踏むことによって解法を知ったり、他者の解法から学んだりすることによって、自分の見えてくる世界が広がっていきます。

“数学”は未知なる力を私たちに与えてくれます。しかし、それを与えられるのは、このプログラムを修了した人のみ。諦めずに目の前の困難に立ち向かい、一歩ずつ着実に進み、最後のゴールを目指して走り続けられる方、ぜひ、履修してみてください。

—— 商学部 × 数学 ——

2022年度修了 三浦 大輝



国際経済における関税の一般均衡、経営における制約内での適正な資源配分、利益の最大化及びコストの最小化、経済学における限界費用や価格弾力性…。商学部で在籍する学生であれば、さまざまな場面で数理的知識が現れてきます。私は本プログラムを通じて、数理的知識は商学部で学ぶ各学問領域をより明快に理解するための強力なツールになると感じました。また、本プログラムにおいて数学的な問いに向き合うことで、多角的な視点に立ち論理的に解法を導く力を養うことができ、数理的知識とは異なる自分の強みを作ることができました。商学部での4年間で自分の強みを作りそれを伸ばしたいと思う方は、ぜひ本プログラムを履修してみてください、きっと世界が広がります。

